

令和5(2023)年度第四次柏崎市地域福祉計画進行管理報告書

基本目標 1	思いやる心を育むまちづくり
目指す姿	お互いを思いやり、暮らしやすい地域づくりを通して共生社会を実現します

1. 事業の進捗状況

行動目標	事業数	区分	令和5年 (構成割合)	令和6年 (構成割合)	令和7年 (構成割合)	令和8年 (構成割合)	凡例
(1)思いやりの心を広げる	9	◎ 順調 (または完了)	5 (55.6%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	4 (44.4%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(2)人を思いやる子どもを育てる	6	◎ 順調 (または完了)	4 (66.7%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	2 (33.3%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(3)福祉の担い手を育てる	9	◎ 順調 (または完了)	3 (33.3%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	6 (66.7%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	

2. 主な取組と成果

- ・生活困窮者自立支援事業では、生活保護に至らない生活困窮者に対して、自立相談、就労支援、家計相談支援事業及び子どもの学習支援事業を柏崎市社会福祉協議会に委託して実施し、生活困窮者の自立と貧困の連鎖防止を図りました。新規で111名の自立相談支援を受け付けました。
- ・放課後児童健全育成事業では、保護者の就労や介護等の支援にも寄与し、放課後や長期休みに適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成を図りました。23か所の児童クラブを民間委託して開設し、年間延べ161,291人が利用しました。
- ・介護職員就職支援事業では、介護人材確保を支援するため、学生に対してお仕事体験塾の周知や介護事業者による出前講座を行いました。また、専門学校や大学等に対し補助金の制度の周知を行い、介護職員就職支援補助金を19名が利用しました。

3. 基本目標 1 __最終評価

最終評価	【評価の説明】
順調	・少子高齢化が進む中で、子どもたちの健全育成や子育て支援、介護支援のために、児童クラブの安定した運営体制の確保や講座などによる支援情報の発信が継続的に行われている点を評価します。 ・医療、福祉、介護職員確保のための取組は行われていますが、人材不足は継続しており、引き続き事業内容を検討する必要があります。

※順調と概ね順調の事業が同数だったため、最終評価は順調としました。

【今後の課題と対応について】

地域には子どもや高齢者、障がいがある人など、様々な人が暮らしています。また、生活習慣や価値観の多様化、ライフスタイルの変化などにより、様々な問題を抱え、支援を必要とする人が今後も増えていくことが考えられます。

地域の中で人と人とのつながりが希薄になっており、人々が抱える問題が見えにくくなっている状況では、身近な人に関心を持ち、互いに思いやりの心を育むことがより一層求められます。年齢・性別を問わず、地域活動に参加できる環境を整え、困ったときに声をあげやすい社会づくりを続ける必要があります。

基本目標 2	地域で支え合えるまちづくり
目指す姿	住民自らが地域課題の解決に取り組み、地域に関わる誰もがつながり協力し合える体制を整えます。

1. 事業の進捗状況

行動目標	事業数	区分	令和5年 (構成割合)	令和6年 (構成割合)	令和7年 (構成割合)	令和8年 (構成割合)	凡例
(1)適切な情報提供や発信をする	22	◎ 順調 (または完了)	10 (45.5%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	12 (54.5%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(2)誰もが主体的に参加できる地域活動を進める	4	◎ 順調 (または完了)	0 (0.0%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	4 (100.0%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	

2. 主な取組と成果

- ・子育て応援事業では、子育てに不安のある親や家族に支援情報等の発信を行うとともに、子どもの健全育成及び子育て中の親を支援するため、子育て講座を年20回開催しました。「子育てキラキラ講座」に延べ187組、「親子であ・そ・ぼ！」に延べ382組が参加し、親同士の交流の場を提供しました。
- ・生活支援体制整備事業では、地域の支え合い活動を推進するため、生活支援コーディネーターと協働し、地域の実情を踏まえた住民協議の場(第2層協議体)を2地区で新規設置、くらしのサポートセンター1地区で付随事業を新たに開始しました。

3. 基本目標 2 __最終評価

最終評価	【評価の説明】
概ね順調	・ホームページや広報、SNS など、多様な媒体を活用した情報発信を行い、必要な人に情報を届ける工夫をしている点を評価します。 ・認知症の高齢者等の増加に伴い、さらに継続して地域の見守り体制の強化を図る必要があります。

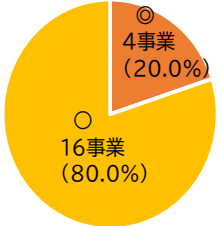
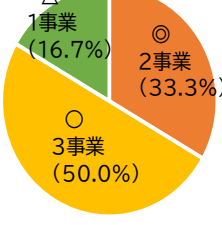
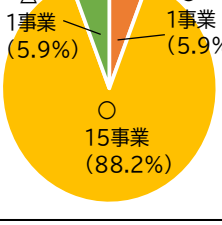
【今後の課題と対応について】

地域のつながりが希薄になっている中で、地域住民が地域課題を把握し、互いに支え合い、解決に向け取り組んでいくために、必要な情報を適切にわかりやすく発信することが一層求められています。

地域で暮らす一人一人が孤立しないために、年齢・性別を問わず、地域に関わる誰もが自分のできごとや特徴を生かして地域の支え合い、助け合いの活動に参加しやすい体制を整える必要があります。

基本目標 3	健康でいきいき暮らすまちづくり
目指す姿	自分の住み慣れた地域で、個性豊かに生きがいを持って、暮らし続けることのできるまちを目指します。

1. 事業の進捗状況

行動目標	事業数	区分	令和5年 (構成割合)	令和6年 (構成割合)	令和7年 (構成割合)	令和8年 (構成割合)	凡例
(1)健康づくりの意識を持ち、実践する	20	◎ 順調 (または完了)	4 (20.0%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	16 (80.0%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(2)集いの場を広める	6	◎ 順調 (または完了)	2 (33.3%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	3 (50.0%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	1 (16.7%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(3)生きがいを持って活動する	17	◎ 順調 (または完了)	1 (5.9%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	15 (88.2%)	—	—	—	
		△ 実施したが不十分	1 (5.9%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	

2. 主な取組と成果

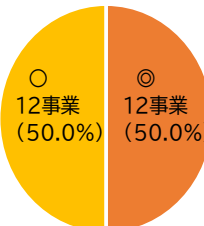
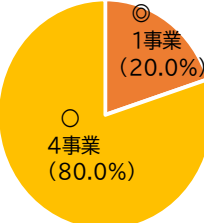
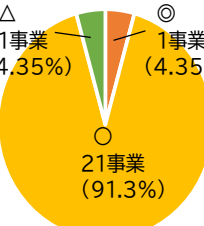
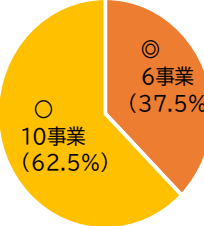
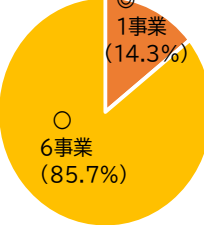
- 健康推進員活動事業では、「こころの健康」をテーマに263町内会から選出された370人の健康推進員が活動しました。各町内会で「こころの健康啓発チラシ」の全戸配布・回覧・集会場に掲示等、啓発活動を実施し、地域に健康意識を広める活動を行っています。
- くらしのサポートセンター事業では、11月に西山南部地区でくらしのサポートセンターが開所しました。暮らしのサポーター(住民ボランティア等)を育成し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるように、体操やレクリエーションなどを行う集いの場の運営を支援しました。
- 市民大学運営事業では、市内2大学、高等教育機関及び地域の人材等と連携し、本市の歴史や地域資源のほか、幅広い分野をテーマに講座を実施し、さまざまな知識を学ぶ機会を提供しました。全14講座(延べ32回)を実施、延べ629名が参加しました。

3. 基本目標3 __最終評価

最終評価	【評価の説明】
概ね順調	・市内で高齢化が進む中で、健康に関する講座やイベントの開催、介護予防や健康増進のための支援や交流の場の整備を積極的に行っている点を評価します。 ・老人クラブ加入者の減少や解散が進んでいたり、交流の場に参加する人が固定化されていたりするため、新規の参加者を増やすための取組が必要です。

【今後の課題と対応について】

健康でいきいきと暮らし続けるために、家族や友人、隣近所などがつながり支え合いながら、一人一人が自分らしい暮らしや生きがいをもつことが大切です。地域における活動や交流の場づくりを進めていますが、利用者が固定化される傾向があるため、年齢や性別、障がいの有無を問わず誰もが気軽に参加しやすい環境を整備する必要があります。

基本目標 4	誰もが安心して暮らせるまちづくり						
目指す姿	誰もが、災害時だけでなく、普段から安全に安心して暮らすことができるまちを目指します。						
1. 事業の進捗状況							
行動目標	事業数	区分	令和5年 (構成割合)	令和6年 (構成割合)	令和7年 (構成割合)	令和8年 (構成割合)	凡例
(1)暮らしやすい 環境を整備す る	24	◎ 順調 (または完了)	12 (50.0%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	12 (50.0%)	—	—	—	
		△ 実施したが不 十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(2)防災・防犯力 の強化を推進 する	5	◎ 順調 (または完了)	1 (20.0%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	4 (80.0%)	—	—	—	
		△ 実施したが不 十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(3)支え合い・見 守りの輪を広 げる	23	◎ 順調 (または完了)	1 (4.35%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	21 (91.3%)	—	—	—	
		△ 実施したが不 十分	1 (4.35%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(4)相談できる 環境の充実を 図る	16	◎ 順調 (または完了)	6 (37.5%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	10 (62.5%)	—	—	—	
		△ 実施したが不 十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	
(5)権利を守る	7	◎ 順調 (または完了)	1 (14.3%)	—	—	—	
		○ 概ね順調	6 (85.7%)	—	—	—	
		△ 実施したが不 十分	0 (0.0%)	—	—	—	
		× 未実施	0 (0.0%)	—	—	—	

2. 主な取組と成果

- ・ 休日・夜間急患センター運営費では、休日及び夜間の救急医療体制(一次救急)を確保したことで、315日開設、延べ879人が利用し、安心できる医療体制の維持・充実に貢献しました。
- ・ 地域防災力向上支援事業では、防災士養成講座を開催して、地域防災の中心的な役割を担うリーダーを育成しました。また、各事業で防災士の参加を促し、地域の防災力向上に向けた意識啓発と体制づくり及び防災士のスキルアップと防災教育の推進につなげました。
- ・ 認知症サポーター等育成事業では、認知症高齢者等が地域で安心・安全に生活できるよう、地域の見守り体制の構築を目指し、認知症サポーターの周知を強化しました。認知症サポーター養成講座を年32回実施し、696名の認知症サポーターを養成しました。
- ・ 保健福祉相談支援事業では、うつ、不安、精神疾患及び障がいを持つ方の悩みや社会復帰の相談に保健師及び精神保健相談員が対応し、こころの保持・増進を図りました。
- ・ 成年後見制度普及啓発等事業では、地域内の権利擁護を支援する人材を育成するため、市民向け成年後見制度研修会を開催した。制度の普及、啓発のために支援者向け研修会を開催するとともに、民生委員等の支援者が出席する会で権利擁護センターや制度利用検討の流れを示したガイドラインの説明をしました。

3. 基本目標4 __最終評価

最終評価	【評価の説明】
概ね順調	・防災士養成講座の実施など、地域の防災意識の向上を目指して積極的に取り組んでいる点を評価します。 ・事業によっては利用者が少なく、周知の仕方や事業内容の検討が必要です。

【今後の課題と対応について】

自然災害の頻発により、地域の防災意識や防災力の向上が重要になっています。災害が発生した時に、支援が必要な人を支えるために、町内会や自主防災組織、民生委員などのさまざまな組織間の連携を強化し、情報共有の仕組みづくりを進める必要があります。

また、地域課題が複雑化し、支援が必要な人が増えている中で、災害時のみならず普段から地域で暮らす全ての人が安心安全に過ごすことができる環境を整えることが大切です。引き続き地域全体で見守り、支え合う体制の整備が求められます。

以上、第四次柏崎市地域福祉計画に基づく、令和5年度(2023年度)の進捗状況を考察しました。地域福祉は「住民主体」が原則ですが、その進展には、市民、福祉関係団体、自治体等が役割を分担した取組が実施され、それらが緊密に連携する必要があります。また、支援を必要とする方に情報が行き届くように、計画や制度をより一層周知することが必要です。この報告を基に、地域で共通して取り組むべき事項が整理され、柏崎市の地域福祉が推進することを望みます。

令和6年(2024年)12月5日

柏崎市地域福祉計画推進会議